ITF（国際運輸労連）第46回世界大会

交通運輸労働者が団結して世間を前進させる

10月13日から19日の日程でアラブ地域では初めてとなるモロッコ・マラケシュで第46回ITF世界大会が開催され、世界中の交通運輸に関係する131ヶ国475組合、代議員912名、アドバイザー717名の約1600人を超える組合員が結集しました。日本の参加者は全国港湾からの4名（竹内、玉田、光部、上村）、交通運労協枠で鈴木誠一氏（全港湾）含む全体で67名が参加しました。大会では、単なる労働組合同士の話し合いの場ではなく、実行の場でなければならないという決意の下に団結した交通運輸労働者の権利、平等、安全衛生、持続可能な運送、未来の形、説明責任、気候変動、パレスチナ・イスラエル等に関する一連の動議、組織拡大などを採択し、世界の団結によってこれらを実施していく決意を固め合いました。

全国港湾は港湾部会総会で石炭荷役問題および港湾の自動化について全国港湾の取り組みと考え方について発言しました。また、全体会議では、戦争・国家間の紛争について「交通運輸労働者の犠牲」に焦点を当てた決議が採択され、全国港湾の「港を兵站基地にするな！いかなる戦争にも反対！」の発言が注目されました。この全国港湾の平和活動はITFから高く評価され、竹内委員長がインタビューを受け、日本の港湾から平和への熱いメッセージを世界の交通運輸労働者に向けて発信するなどの特徴的な動きがありました。ITF執行部体制については、パディ・クラムリン会長、スティーブ・コットン書記長が再任、全国港湾からは真島前委員長から竹内委員長が港湾部会委員に就任、玉田書記長が公正慣行委員に再選されました。

躍動する北アフリカの要所モロッコ

アフリカ大陸の北西端に位置する立憲君主制のモロッコ王国は北部を地中海、西部を大西洋に面し、古くから北アフリカの交通の要所として栄えてきました。アフリカにありながら欧州にも至近の地理的優位性を活かし、欧州とアフリカを結ぶ物流拠点となっており、首都ラバトの南西90kmに位置するカサブランカがモロッコ最大の都市として商業・金融の中心地になっています。今回ITF世界大会の場所となったマラケシュはモロッコのほぼ中央に位置し、カサブランカに次ぐ第2の都市です。マラケシュは城壁に囲まれた旧市街地と新市街地からなっており、旧市街地は歴史的建造物が豊富で世界遺産に登録されています。モロッコの主要港湾であるタンジェ港は地中海を挟んでスペインからわずか14kmに位置し、近年国際貿易港と工業団地の一体運営により急成長を遂げ、2022年時点での貨物取扱量はアフリカ最大規模の760万TEU誇っています。

豊かで雄大なる自然と大地が生み出す「美」の源

モロッコの景色といえばサハラ砂漠を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、北アフリカ最高峰のツブカル山をはじめとする4000m級の山々がそびえるアトラス山脈、青い海を望む港町など多様な表情に満ちています。モロッコの基幹産業である農業はモロッコの人々の生活を支え、特に世界第6位の生産量を誇るオリーブは、高血圧・糖尿病予防に効果ありといわれるポリフェノールを通常の10倍から30倍も含む奇跡のオリーブといわれ注目されています。また、世界で唯一モロッコ南部にのみ植生するアルガンの木の実から採れる「アルガンオイル」は、日本や欧米の美容業界でも脚光を浴びていることはご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

世界を動かす交通運輸労働者

ITFは1896年に設立され、民主的で加盟組合主導による権威ある交通運輸労働者（港湾、船員、水産、倉庫、運輸、鉄道、航空、都市交通、観光など）の国際組織です。現在150カ国700以上の加盟組合と連携させながら世界の労働者の権利、平等、安全、衛生、正義の実現を目指し、世界中の交通運輸労働者1650万人の声を代弁しています。ITF本部はロンドンにあり、日本には東京・田町に事務所を構えています。

ITF CONGRESS 2024

ITFの原則

以下の目標はITFの活動すべての基盤となっています。

☆世界中で労働組合と人権の尊重を促進すること。

☆社会正義と経済の発展に基づく平和のために努力すること。

☆組合員の利益を守る加盟組合の活動を支援すること。

☆加盟組合のためにリサーチを行い、情報を提供すること。

☆困難に直面する交通運輸労働者に対し、一般的な支援を提供すること。

ITFを支える青年労働者

ITFの青年労働者の登録人員は前回2018年のシンガポール大会時の115万人から178万人へと63万人増加しました。青年総会では、71カ国、142組合から約200人を超える青年労働者が参加し、組織拡大について継続議論を図りながら「安定した仕事と安全な職場は、もはや希望ではなく、保証された権利である」とする将来展望を確認しました。その他の議論では「青年労働者は現在と将来の両方の生活が脅かされる危機に直面している」とし、特に「非正規雇用の人たちは安定した雇用や収入・手当がないため、さらなる困難に陥っている」とする発言が出されました。こうした問題に立ち向かうために、青年総会は青年の組織化と執行部に入れることを支援するよう求める動議を承認しました。

力強く立ち上がるITFの女性

本大会の部会の一つとして開催された「女性総会」はITF女性委員会の設立から25年という節目に開催されました。総会の中では多くの代議員から「女性労働者は職場の意思決定の場からの排除、差別、暴力、敬意の欠如などの問題に直面している」との発言が出され、ITFに対してジェンダーに基づく排除と差別が常態化しないように勇気ある意思決定と支援の必要性に取り組むことが提起されました。その結果、あらゆる差別に対する世界の女性交通運輸労働者の権利促進のために、さまざまな課題に取り組んでいくことが全体確認されました。

労働者を無事に帰宅させよ！

大会では、様々な動議が世界各国から提起され、その中でも「交通運輸労働者を無事に帰宅させよ」は特徴的でした。今や世界的に交代勤務は交通運輸産業に根付いており、交通システム全体が機能するためには不可欠となっています。このため、自宅から遠く離れた場所での労働や深夜の時間帯の通勤が発生し、多くの労働者、特に女性、障がい者、人種差別に直面している労働者は安全性に不安を感じ、安全に帰宅する権利を有することは当然であるとしました。ITFは安全基準に沿って「労働者を無事に帰宅させる」よう使用者、政府に対して合理的措置を講じる取り組みを採択しました。

港湾労働者「ITF6つの要求」を実現する

港湾部会総会では、世界の港湾労働者が直面している「権利」「平等」「安全」「持続可能性」「説明責任」「仕事の未来」の6つの要求と密接に関係している重要な活動分野であることが確認されました。特にコンテナターミナルの自動化導入に伴う労働条件の低下や雇用破壊、職場の安全が危機に晒されているなどの点について各国代表者から「港湾労働者の団結と連帯こそが今後の取り組みの道標となり、団結が強まれば強まるほど、困難や苦難を乗り越えられる」との発言が多く出されました。全国港湾からも竹内委員長が石炭問題とコンテナ自動化導入に伴う取り組みを世界に向けて紹介しました。

We are ITF
We are 全国港湾

日本の取り組みを紹介
（山内委員長発言）

竹内委員長が今、全国港湾が直面している課題である「石炭問題」と「港湾の自動化」についての取り組みを紹介し、世界にアピールしました。発言後、パディ会長ら会場から割れんばかりの歓声が挙がりました。以下、全文紹介します。

ITFに加盟するみなさまにおかれましては、全国港湾として勇気と団結の心をいただきありがとうございます。今、全国港湾は概ね2点における「体制的合理化」問題が挙げられます。1点目はCO2問題に起因する石炭問題です。日本は島国であります。よって、93港もの港が存在し、その中でも石炭のみで生きてきた港が多数存在します。つまり、石炭問題は全国港湾の仲間、大勢の仲間のいのちに直接係る問題でもあるのです。この石炭問題はすでに世界各地域でも起こっている問題であると思っています。これは、日本でもしかりであり、エネルギーの転換として全国港湾の仲間が雇用を失うといった大問題に直面しております。いま、全国港湾は闘いにより「政労使」の3者で構成する「石炭連絡会議」を設置して公正な移行に向けて日夜取り組んでいる最中です。全国港湾としてもITFに結集する皆さまの勇気とパワーを戴きながら、取り組みをすすめていく決意です。次に港湾の自動化の件です。日本においても自動化問題は国、使用者等から相当な圧力を掛けられています。全国港湾は断固圧力に屈しないよう全力で取り組みを進めていきます。全国港湾の歴史は「体制的合理化」との闘いの歴史でした。つきましては、仲間の雇用を犠牲にする自動化に対しては、ストライキを行使してでも闘い、港湾の自動化には反対、阻止していきます。

平和と連帯を求める
力強い呼び掛け

世界各国からパレスチナ・イスラエルの中東紛争については、平和と連帯を求める力強い呼び掛けが行われました。ITF会長を務めるオーストラリア海事組合（MUA）のパディ委員長は正義と平和に対するITFの長年の約束として「ITFには二国家解決策、そして主権国家パレスチナの樹立にコミットしてきた長い歴史がある」と表明。その上でパレスチナ・イスラエル両方の労働者を支援するというITFの決意を再確認するとともに加盟組合と国際労働運動の団結した対応を呼びかけました。

この中で全国港湾の竹内委員長も日本が平和憲法を維持することを望むとした平和の取り組みについて発言し、次のような内容で紹介されました。「毎月1回木曜日に駅前に立ち、世界平和と港湾を戦争のために使うな！と訴えている」「戦争が始まると犠牲になるのは常に交通運輸産業労働者を含む労働者である。我々は平和のために闘う」としました。この案件を含めて平和と連帯を求める呼びかけは圧倒的多数で可決され、本大会の平和と正義への約束が示されました。

日本の平和の取組みを紹介
（竹内委員長発言）

竹内委員長が全体会議で日本の平和憲法を維持することを望むとした全国港湾の平和活動の取り組みについて、全文紹介します。

世界の平和と私たちが働く港湾を戦争のために使うことに反対することの大切さを訴え、発言させていただきます。平和な暮らしを求めるのは労働者の権利です。日本政府は「戦争をしない」「武器を持たない」ことを世界に約束した日本国憲法を持っているにも係わらず、改悪しようとしています。私たち全国港湾は日本政府に対し、憲法改悪に断固反対の決意で取り組んでいます。戦争によって攻撃されるのは港湾であり、港湾労働者です。したがって、私たちは月1回、木曜日に朝の通勤ラッシュの駅前で「世界平和」と「港湾を戦争のために使うな」との宣伝行動を実施しています。

戦争をしないと世界に約束した憲法を持つ国として、日本政府は戦争反対と平和を最も訴えていくべき立場にあるはずです。戦争の犠牲者になるのは、交通運輸労働者です。全国港湾は世界に向けて、平和に向けた取り組みを実行していることの報告をし、決意表明とさせていただきます。

ITF世界大会に参加して

世界大会に参加して感じたことは、様々な違いこそ大きな力となり、労働者の圧倒的なパワーと熱い思いを体感しました。特に会議が始まる前に繰り返し流されるビデオメッセージでは「いかなる形態のハラスメントや抑圧に対しても行動を起こすことが集団としての私たちの責務である」「沈黙ではなく声を上げよう」「We are ITF!」は心に残りました。また、ITFマラケシュ大会を言葉で言い表した場合は「ITFは大会に参加するみなさんこそ力。その力を発揮してこそITFの力になる。世界の交通運輸労働者はあらゆるものを運び、あらゆる困難な中でも仕事を続けてきた。パンデミックの時もやってきた。だから交通運輸労働者は世界を動かしているといえる。その交通運輸労働者が団結して労働者の権利の獲得。労働組合の権利の擁護。そして、世界の仲間同士の連帯を強める。本大会がそれに相応しい大会になるようにがんばろう」との言葉を世界大会に参加する同行者からいただきました。

社会を形成する重要な役割を担っているのは私たちである。

We are Zenkokukowan!

全国港湾労働組合連合会　中央執行委員　光部泰宏

FLAGS OF CONVENIENCE CAMPAIGN
ITF
NOWHERE TO HIDE

INTERNATIONAL
TRANSPORT
WORKERS’
FEDERATION